

5.5 現地調査（プロット調査）

航空レーザ計測成果から解析により算出した樹高、立木本数、及び前項で作成した樹種区分の検証を現地にて行う。現地調査は、本業務対象範囲内におけるスギを対象に、幹材積推定を行う際に用いる回帰式を作成するため必要となる諸元情報（座標・樹高・胸高直径・樹冠長）の取得を目的とする。

調査範囲の設定は、林齢や樹高、立木密度が異なる林分を前項までの抽出結果等から選定し、本業務対象範囲における様々な林分を網羅するよう設定し、地域特性を考慮の上、20箇所程度を目安とするが、統計的信用係数等を発注者と協議の上、必要標本数を確保できるように調査箇所を決定する。

現地調査手法は、選定した地点を中心に半径 11.3m（400 m²）の円形プロットを設置し胸高直径 6cm 以上の樹木について樹種・胸高直径、特定の胸高直径階に偏らないよう 10 本選定し樹高・樹冠長を計測する。また高性能 GNSS (SmartSOKURYO POLE) により中心座標値を取得すると共に、調査範囲における垂直林分構造（林分の林冠層の概要が把握できる立木構成状態）や間伐等の実施状況等を記録し、概観写真と全天球写真を撮影する。

- 1) 調査対象：胸高直径 6cm 以上の立木
- 2) 標準地の中心座標
- 3) 全立木を対象とした調査項目
 - ① 胸高直径
 - ② 樹種
 - ③ 本数
- 4) 標準地における主たる立木（10 本）を対象とした調査項目
 - ① 樹高
 - ② 生枝下高
- 5) 下層植生の調査項目
 - ① 代表高（高木層、亜高木層、低木層、草本層）
 - ② 被度の目視判定
- 6) 全周囲デジタルカメラによる林冠層等の状況の記録
- 7) その他特記事項（間伐の実施状況、シカ食害の有無など）



図 5.12 現地調査のイメージ

現地調査の結果は、調査内容・現地調査地点の位置図・現地写真を添付した現地調査結果報告書を作成する。